

第2回 気候市民会議まつもと 開催報告

1. 概要

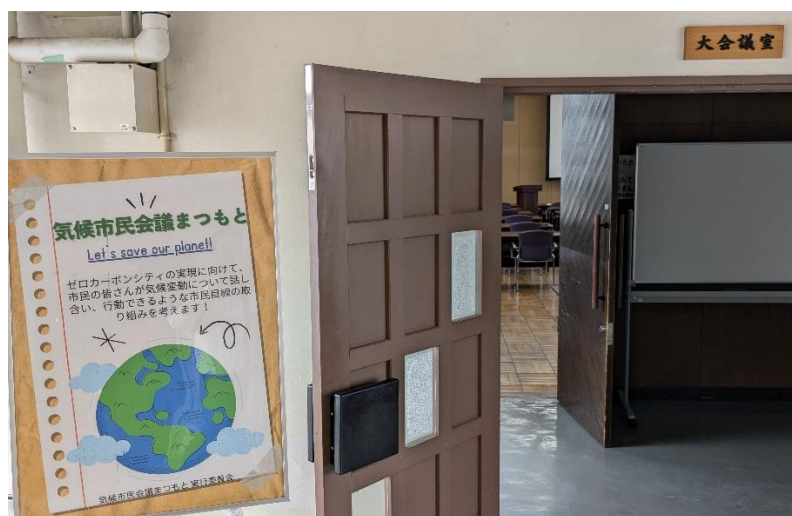
日 時 2024年9月28日(土) 13:00~17:00

会 場 松本市役所 本庁舎 大会議室

参加者 参加者 40名(欠席7名) 傍聴者6名 実行委員会関係者21名

プログラム

- ・本日のオリエンテーション
- ・第1回のふりかえり
- ・情報提供と質疑応答①
平林高広氏(長野県 環境部 環境政策課 ゼロカーボン推進室長)
「2050ゼロカーボン実現に向けた長野県の取り組み」
- ・情報提供と質疑応答②
鈴木博史氏(松本市 環境エネルギー部 環境・地域エネルギー課長)
「ゼロカーボンで住みよい松本市を実現するための取り組み」
- ・対話1 政策って難しい? 疑問点・不明点をすっきりさせよう
- ・情報提供③
信州大学人文学部社会学研究室
「気候変動と脱炭素社会に関するアンケート調査」結果について
- ・対話2 気候変動対策を進める上で大切だと考えること
- ・事務連絡、閉会、アンケート記入



(会場：松本市役所 本庁舎 大会議室)

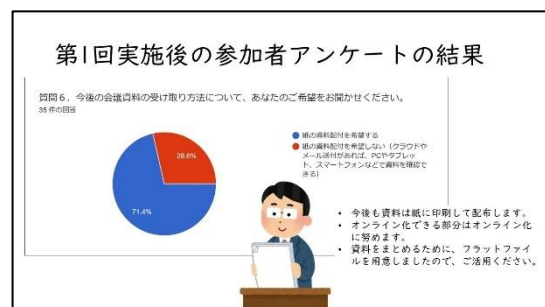
2. 実施内容

全体の進行は、気候わかもの会議まつもと（Y-CAM）のメンバーである吉村隆博さん（信州大学理学部3年生）が担当しました。

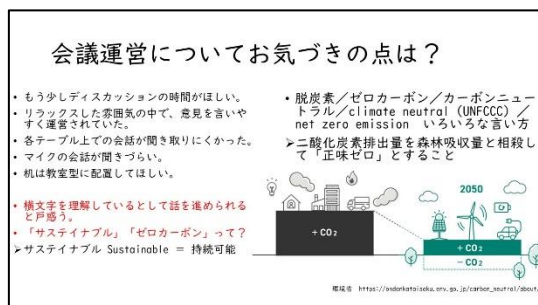
（1）オリエンテーション

統括ファシリテーターを務める茅野恒秀さんの進行で、第2回のオリエンテーションを行いました。第1回では、実施した江守正多さんと浜田崇さんの情報提供によって気候変動の現状を地球レベルと松本市域の双方のレベルで確認し、世界は気候変動対策のために大転換を求められていることを共有しました。第2回は、世界や日本政府だけでなく、長野県と松本市も気候変動対策を積極的に推し進めていることを学びます。

また第1回実施後の参加者アンケートの結果を共有しました。情報提供の内容については概ねわかりやすく、偏りがなく適切と評価されています。グループ対話では思ったことを発言できたという方が大多数を占めました。会議資料の受け取り方法については、紙の資料配付を希望の方が7割以上いたことから、今後も資料は紙に印刷して配布することとしました。



会議の運営についてお気づきの点を収集したところ「サステイナブル」「ゼロカーボン」などの横文字が何を指しているのかわからないというご意見がありました。二酸化炭素排出量を森林吸収量と相殺して正味（実質）ゼロとすることを指す用語として、現在「脱炭素」「カーボンニュートラル」「ゼロカーボン」「ネットゼロ」など様々な表現があることを紹介し、この会議では、当面の間、「ゼロカーボン」を統一的に用いていくことを決定しました（決定方法について協議した上で、挙手による多数決を行い、「脱炭素」が3名、「ゼロカーボン」が28名、「カーボンニュートラル」を支持した方が11名、「それ以外」を採りたい方が1名）。



この会議初の意思決定をしてみましょう

□この会議での言い方をある程度統一しておきたい？

- ① 脱炭素 ※「脱炭素社会」などの時には使いやすい
- ② ゼロカーボン ※県、市はこの言い方
- ③ カーボンニュートラル ※国はこれだが「ゼロカーボンシティ」も
- ④ 正味ゼロ、実質ゼロ、ネットゼロ ※世界では、です
- ⑤ それ以外

(2) 第1回 CAM のふりかえり

第1回気候市民会議の内容を、統括ファシリテーターとY-CAMの矢花優太さん、Munkhsuvd Munkhchuluunさんがコンパクトに報告しました。グループ対話にて出された全ての意見（付箋）が文字化された開催報告は、松本市ウェブサイトでも公表しています。

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/143953.html>

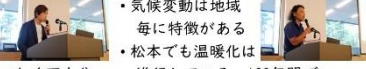
気候変動の現状
2人の専門家から情報提供を受けました

江守正多さん：「気候変動問題の現状とこれからの社会」

- ・温室効果
- ・人為による温暖化
- ・様々な環境変化
- ・現状の排出削減はまったく不十分
- ・排出削減の手段は存在し、すでに安価になっているものも
- ・我慢によらず、社会の仕組みが変わる必要がある

浜田崇さん：「松本市域における気候変動とその影響」

- ・気候変動は地域毎に特徴がある
- ・松本でも温暖化は進行している。100年間で猛暑日20日増、冬日53日減少
- ・農業、林業、観光業に影響
- ・気候変動対策には「緩和」と「適応」の2方向の取り組み



グループ対話
学んだこと／感じた疑問や心配ごと



松本市ウェブサイトで開催報告を公表してあります。
参加者の皆様もぜひご覧ください。（全ての付箋を文字化してあります。）

(3) わいわいタイム

学びの時間に入る前に、第1回の最後に事務連絡で参加者に「今日の感想を、ぜひご家族やご友人と共有してください」とお願いしたことを受けて、「第1回の感想を、誰に、どんなふうにお話ししましたか」をテーマに、隣の席の方と交換する時間を設けました。



(4) 情報提供①

平林高広さん（長野県環境部 環境政策課 ゼロカーボン推進室長）に「2050 ゼロカーボンに向けた長野県の取り組み」と題して、情報提供をいただきました。



冒頭、平林さんからは長野県庁の気候変動対策の取り組みの歴史が意外と長いこと、かつては地球温暖化対策課、環境エネルギー課が設けられ、再生可能エネルギーも「新エネルギー」と呼ばれていたことなど、時代の変化とともに言葉が変化してきたことが紹介されました。

長野県にとって、気候変動を強く意識させたのは2019年10月の台風19号豪雨災害でした。都道府県で初めて「気候非常事態宣言」を発信し、2050年にゼロカーボンを実現することを知事が決意表明したのです。宣言のきっかけは、一人の県民からの提案だったといいます。その後、県議会は脱炭素社会づくり条例を制定し、「長野県ゼロカーボン戦略」の策定につながります。日本政府が2030年に向けて46%削減という目標を持っていますが、長野県はそれよりも高い、60%削減（※基準年を政府と合わせると57%削減）を設定しました。また県はただ温室効果ガスの排出削減を進めるだけでなく、お金や資源を地域で循環させ、地域を豊かにすることを目指しています。

県が試算したところ、2050年ゼロカーボンを実現するためには、最終エネルギー消費量を7割削減、再生可能エネルギーの供給量を3倍にする必要があります。2050年に目指す姿も、自動車は全てEV・FCVとし、歩いて楽しめる街をつくること、建物は既存の建物を含めて全て省エネ基準を満たすものになっていること、などとイメージされています。

しかしながら、2030年までに60%削減する目標に対して、2020年の実績値では22.6%までしか削減ができていません。このため2030年までに、EVの普及率を10%まで引き上げること、新築建築物は全てZEH・ZEBとすること、住宅屋根の太陽光発電設置件数を22万件まで増加させるなどの具体的達成目標（ロードマップ）を持っています。

これらの実現のために、県庁内ではあらゆる政策分野にまたがって取り組みが進められている状況です。また国ではカーボンプライシングを進めることによって、これまでコストや品質・性能を中心に評価されてきた製品の価値に、CO₂排出量という評価軸が加わることが予想され、県内産業も大転換を求められる時代になっています。こうした大転換が、よりよい生活をつくっていくことを結びつかねばならないというメッセージで情報提供がまとめられました。

※EV：電気自動車（Electric Vehicle）

FCV：水素を用いた燃料電池自動車（Fuel Cell Vehicle）

ZEH（ゼッチ）：建物の断熱性を高めて省エネを実現するとともに、再生可能エネルギーによってエネルギー収支ゼロを目指した住宅（net Zero Energy House）

ZEB（ゼブ）：建物の断熱性を高めて省エネを実現するとともに、再生可能エネルギーによってエネルギー収支ゼロを目指したビル（net Zero Energy Building）

カーボンプライシング：排出するCO₂（カーボン、炭素）に価格をつけ、それによって排出者の行動を変化させるために導入する政策手法

平林さんの情報提供に対して、参加者からは以下の質問がありました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
1) ロードマップに記載されていたEVを10万台普及させることについて。EVは通常、	ゼロカーボン実現は非化石の電力や燃料を用いることが前提になっている。EV自体は、

夜に充電すると思いますが、太陽光発電の電気が使えません。エコキュートも同じ発想で、原子力発電に頼らなければならなくなると、放射性廃棄物のことや温排水の排出などの問題もあります。EV 単体で考えればゼロカーボンには効果があるかもしれませんが、電源まで考えると、後々に問題が生じることにならないでしょうか。 (追加の質問) 火力発電の場合には、使わなかったら止めることができますが、原発はそうではないと思います。止められないなら、その電気を使ってもらわなければならないという理屈になってしまうのではないのでしょうか。それがオール電化とか EV 普及とつながっているのではないのでしょうか。 夜に電気を使わないという生活ができれば、夜の間は発電を抑えるという考え方もありえます。火力発電を化石燃料ではなく森林などの燃料で運転させるということもありえます。	現状の電源構成でもガソリン車に比べて排出量は減るという計算に基づいている。 電化する際の電源について、最終的には長野県で使うエネルギー消費量を全て再生可能エネルギーで賄う考えを持っている。国レベルでは、現在検討中の新たなエネルギー基本計画でどうなるかというところを注視している。 長野県では再生可能エネルギーの資源があるので、それで必要なエネルギーを賄うという方策をとっていきたい。 (統括ファシリテーターからの補足) 現在、夜間の電気が安い時代は終わっており、日中と同等の価格帯になっている。かつて夜間の安い電力を使ってお湯を沸かすエコキュートという商品があったが、現在は「おひさまエコキュート」といい、日中の太陽光発電の電気を使ってお湯を沸かす商品に移り変わっている。 日本全体でも、日中・昼間の電気が割安になっている。市場でも価格がつかない時間帯があったりする。それは太陽光発電が増えているから。 企業でも、企業の社屋や駐車場に太陽光発電を設置して、仕事中に充電してもらう仕組みを実証しているところが出てきている。 季節や日によって一概にいけないが、電気が余る時間帯が夜ではなく昼間になっていることは注目すべき変化である。 送電網の管理の仕方も世界で変わっている。 EV は蓄電池を搭載しているので、夜間、家庭に必要な電気を EV から使う V2H という仕組みが広がっている。
2) 森林吸収量 200 万トン「期待値」というお話がありましたが、今は人工光合成など	実績値としては 170 万トンほど吸収している。これをどう伸ばすかは、植え替えや間伐

の技術も進んでいるので、信州大学などの技術開発に期待する、資金支援をするといったことは考えていないのでしょうか。	を行って吸収量を増加させる。 新技術については、チャレンジしていく必要はあると考えている。
3) 新築住宅に対する支援策はわかりましたが、既存の住宅に小規模の太陽光発電から電力を供給するなどの方法は考えられないのでしょうか。 (追加の質問) 小規模の集落などの単位で新たに太陽光発電所をつくって、そこから各家庭に供給することは考えられないのでしょうか。	建物の屋根はフル活用したいので、新築に限らず、既存の住宅もぜひ導入してほしい。ただし少し割高になってしまうことは事実。 小さい地域でエネルギー自給を完結させるマイクログリッドなどの技術はある。長野県ではエネルギー自立地域創出プロジェクトがあり、その中で資金面での支援をする仕組みを設けている。 (統括ファシリテーターからの補足) 皆さん、ご自身の住宅にどのくらい太陽光発電が導入可能か、調べたことはおありだろうか。長野県は「信州屋根ソーラーポテンシャルマップ」を公表していて、皆さんのお宅も検索が可能になっているので、ぜひご覧になっていただきたい。 すでにある住宅で、導入のきっかけづくりにも取り組んでいるところ。 (情報提供者からの補足) 現在、長野県では太陽光発電のポータルサイトを整備中で、10月には皆さんにご覧になっていただける予定。 (統括ファシリテーターからの補足) 新たなサイトを皆さんで見えてみて、感想や改善点を伝えるというのも、気候市民会議まつもとしてやってみても良いかもしれない。

（５）情報提供②

鈴木博史さん（松本市環境エネルギー部 環境・地域エネルギー課長）に「ゼロカーボンで住みよい松本市を実現するための取り組み」と題して、情報提供をいただきました。



冒頭、鈴木さんからは以前は環境部、環境政策課と呼ばれていた部署名が、やはり気候変動対策関連の課題や業務が増えてきたため、2021 年から現在の名称に変更されたことが紹介されました。参加者には、まつもとゼロカーボン実現計画の冊子版と概要版が配布され、参加者は冊子版をめくりながら情報提供を受けることとなりました。

松本市の気候変動政策は、2020 年に 2050 ゼロカーボンシティの表明をした後、松本市総合計画の重点戦略にゼロカーボンが位置づけられ、急速に進展してきたと言えます。松本平ゼロカーボン・コンソーシアムの発足、脱炭素先行地域の選定、松本市ゼロカーボン実現条例の制定、まつもとゼロカーボン実現計画の策定、松本市の豊かな環境を守り適正な太陽光発電事業を推進する条例の制定、松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社の設立など、数年の間に様々な動きが出てきています。

松本市のゼロカーボンの取り組みの最大の特徴は「まちづくりの大原則」として条例で位置づけられ、①再生可能エネルギー、②省エネルギー、③持続可能な地域環境の整備の 3 つの柱が計画で定められています。

松本市の温室効果ガスの排出量を区分別に集計すると、運輸部門と家庭部門を合わせると 50%を超えます。つまり市民生活に関わる排出が半分以上を占めることになります。また長野県の世帯あたりの温室効果ガス排出量は、全国平均の約 1.5 倍にのぼります。その要因は暖房、自家用車、給湯などのエネルギー消費が大きいことがわかっています。こうした大きな要因を対策していく必要があります。松本市の再生可能エネルギーのポテンシャル（生産能力）は、太陽光がもっとも大きく、全体のポテンシャルの 57%を占めています。小水力発電と比べても桁違いで、太陽エネルギーを活用する必要があります。

住宅用温暖化対策設備設置推進事業で、生活に身近な住宅設備の改修補助制度を設けていることも特徴で、県内ではこれだけ多様なメニューを持っている市町村はありません。省エネ関係の設備には広く、太陽光発電や蓄電池、EV や V2H への補助制度があります。

長野県と同様に、ゼロカーボンに向けた取り組みはあらゆる政策領域にまたがるため、公共交通の利用促進、松本森林再生市民会議（まつフォレ）の活動、「30・10 運動」などの食品ロス削減の取り組みなど、多岐にわたる事柄がゼロカーボンと関連していることが示されました。

鈴木さんの情報提供に対して、参加者からは以下の質問がありました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
1) 乗鞍高原の取り組みについてはわかりましたが、街型として波田駅周辺ではどのような取り組みが進められているのでしょうか。	波田駅周辺では、市立病院の建て替えが進む予定で公共施設が集積している特性もあり、避難所になっている。そこでモデル的に、再生可能エネルギーを活用したインフラ整備ができないかと考えて、現在検討しているところ。公表できる段階になれば広く周知していきたい。 一つの施設に再生可能エネルギーを導入するだけでなく、地域全体で共有することでエネルギーを効率的に自給できる仕組みができればと考えている。
2) (統括ファシリテーターからの質問) 松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社が設立されたとありましたが、電力会社の経営が成り立つ規模なののでしょうか。松本市全体で、どのくらいの電気料金を私たちは支払っているのでしょうか。	(副市長からの返答) 地域エネルギー事業会社を設立する目的は、エネルギーの地産地消。松本市では年間 300 億円の電気代を支払っている。この額を松本市内で地産地消、循環させることによって経済が活性化することを目標としている。 (副市長からの補足) 拙宅では太陽光発電パネル、蓄電池を導入して、今年の春から中部電力からの電気を一切購入していない。自給自足ができています。今後は EV も導入しようと考えています。
3) 副市長さんから、電気の自給自足ができているという話がありましたが、私の家では 4 月～5 月に曇りが多かったせいか、蓄電池に十分充電ができませんでした。冬期も中部電力からの電気を購入しなければ不足してしまいます。バッテリーの容量の差などあるのでしょうか。 蓄電池があれば、公共施設での活用も期待できそうです。	(副市長からの返答) ここ数年の技術革新で、バッテリーのコストが下がっていて、蓄電池の容量を大きくできます。 しかしまだ高価です。 市の補助金も拡充したいと考えています。
4) 太陽光パネルの耐用年数が 20～30 年とありますが、そろそろ耐用年数が来るという方々がいた場合、また蓄電池もそうですが、ゴミはどうなるのですか。	(統括ファシリテーターからの補足) 第 1 回でもその話題が出て、今後、情報提供等の形で知見を固めていきたいと考えています。

5) EV への補助金についてももう少し具体的に教えてください。 (追加の質問) 松本市へ移住した際、車がないと生活できないと言われて、すぐに車を購入しました。皆さん同じだと思いますが、もちろん EV 車を買いたいが高いため、もっと補助金は充実しないのでしょうか。	資料 12 枚目の④は EV 購入に対する補助金。⑤は EV を蓄電池として活用しますといった場合の補助金。 今年度はこのメニューで補助対象としているが、今後も普及促進策を打っていく予定。本体だけでなく充電設備への支援策も検討。また来年度から EV カーシェア事業を、市が始める。市役所内に 2 台、EV を公用車として入れて、平日夜間と週末は市民にシェアする仕組みを導入する。
---	---

※V2H：Vehicle to Home の略称で、EV 等に搭載された電池から家庭に電力を供給できる機能

(6) 対話Ⅰ：政策って難しい？ 疑問点・不明点をすっきりさせよう

長野県と松本市の気候変動政策は、それぞれ情報量も豊富で、一度の情報提供で理解・消化することは難しいものです。またそもそも、日常生活を送っている中で、行政計画をじっくり読む機会や政策用語に触れる機会も豊富にあるわけではありません。何がわからないかがわからない、という状況に陥ることを避けるために、対話Ⅰは 2 つの情報提供を受けての疑問点・不明点をグループで出し合う機会としました。

各グループにはグループサポーターに加えて、行政職員・大学職員を配置し、疑問点や不明点が資料のどこに書かれているかをガイドできるように進めました。

政策って難しい？ 疑問点・不明点をすっきりさせよう

平林さんと鈴木さんの情報提供で、よくわからなかった事柄はありませんでしたか。

- 県の制度、市の制度はどこを見ればわかるの？
- 興味があることがあったけれど、資料のどこを詳しく読めばよいの？
- この言葉の意味って？



などなど、各グループに行政・大学職員が伺いますので、疑問点や不明な点を解消していきましょう。
☆疑問点・不明点はできるだけ付箋にメモしてみてください。
☆付箋は模造紙へ集約させてください。



(7) 情報提供③

信州大学人文学部社会学研究室的佐藤由衣子さん、山口紗季さん、渡邊拓実さんに「「気候変動と脱炭素社会に関するアンケート調査」結果について」と題して情報提供をいただきました。



この調査は気候市民会議まつもとの参加者募集案内に同封する形で、無作為抽出された 5000 人の松本市民（16 歳～74 歳）に配布し、WEB 形式または返信用封筒で調査票を返送いただく形で回答してもらい、749 名の市民から有効回答を得ました。設問は回答者の属性に関するものが 4 問、気候変動に関するものが 8 問の 12 問で構成しています。

気候変動に関する実感や心配ごとについて聞いた設問では、日常生活の中で気候変動の影響を感じることはないとした回答者はわずか 4 名（0.5%）で、夏の暑さ（95.6%）を筆頭に、台風や土砂災害などの増加、雨の降り方の激しさ、食生活への影響が 50%以上の方が感じていると回答しました。また気候変動の影響で心配なことについても、特に心配はないとした人は 2 名で、9 の具体的選択肢のうち 8 つまでが、50%以上の方が同意していました。属性との関係を相関係数で測定したところ、夏の暑さ、台風や土砂災害、食生活への影響は女性が特に

感じていることが、心配ごとについては年齢が上がるほど農作物への影響、気象災害の増加、ライフラインへの影響、野生生物の生息域変化を感じる人が多いとの結果となりました。

温室効果ガス排出削減の手法に関する評価では、「何が効果的かがわからない」を選んだ人が約6人に1人いました。これは女性に多い傾向にあると言えます。個人ができる気候変動対策の取り組みとして、長野県ゼロカーボン戦略やまつもとゼロカーボン実現計画に記載のある行動を10種選び「難しいと思う」から「実行可能と思う」に「すでに取り組んでいる」を加えた7段階で評価してもらったところ、自動車を買換える時にEVを選択することと、通勤・通学の際に公共交通を利用することが「難しいと思う」人が多く、住宅の高断熱改修、自宅への太陽光発電や太陽熱利用の導入、再エネ電力の購入が「難しい」と「実行可能」が拮抗する結果となりました。属性とあわせて分析すると、対策がとれる人と（現状の暮らし向きや住まい方では）とれない人がいる可能性が示され、どのように政策で支援すべきかを考える必要があると言えます。

社会学研究室の情報提供に対して、参加者からは以下の質問がありました。

参加者からの質問	情報提供者からの返答
1) 松本市には35地区あって、地区やブロックによって回答傾向が違うのではないかと思います。いかがでしょうか。	参加者募集案内に同封したアンケートでは、調査票のスペースの制約で居住地区の情報は聞かなかった。 274名からいただいた参加表明書には居住地区を記入いただいているので、追加で分析可能。
2) 夏の暑さを感じている人にも、EV購入に前向きな人にも女性が多い傾向があるとの分析結果ですが、回答者にそもそも女性が多いことと関係するのでしょうか。また男性が特に割合の多い分析結果はあるのでしょうか。	回答傾向を属性との相関という形で分析しているので、人数が多いということではなく、女性がこのように回答する傾向があるということ。 男性の回答者に特徴的な結果については、次回以降、追加で分析してお答えしたい。

（8）対話2：気候変動対策を進める上で大切だと考えること

今日の情報提供でわかったことには、気候変動対策としてすべきことははっきりしているけれども、とくにアンケート調査結果などを見ると、対策をとれる人と、そうでない人とが、この社会をともに構成しているということがわかります。これらの個々の取り組みをどうやって、きめ細かく推進すべきなのかは、今後の会議で詳しく検討が必要です。

そこで対話2では、今後の議論を進めていく上で、シンプルですが大切な対話に取り組みました。それは、参加者一人ひとりが、気候変動対策を進めていく上で大切だと考えることは何か、を考えていただき、共有いただきました。

さらに、気候変動対策の中で、参加者の方々がとくに興味や関心を抱いたテーマや対象につ

対話2 気候変動対策を進める上で 大切だと考えること

これまでの情報提供を受けてみて、
気候変動対策を進める上で大切だと考えることは、
どのようなことでしょうか。

誰一人取り残さない。

—SDGsの理念って

—タワーレコードは

今後、市民アクションプランや政策提言を
検討していく中で、「一人ひとりの「柱」」に
なるものは見つかったでしょうか。

☆アイディアは付箋にメモして、グループで共有しましょう。
☆共有したことは模造紙へ貼り付けてください。

※お一人の1回の発言時間は最大
2分程度と意識してみましょう。



対話2の続き
興味のあるテーマ・対象は？

※お一人の1回の発言時間は最大
2分程度と意識してみましょう。

気候変動対策の中で、
とくに興味や関心を抱いたテーマや対象は
あるでしょうか。

県や市の政策の中から考える
独自に考える どちらでもOKです。
複数ある人は複数出してください構いません。

☆付箋にメモして、模造紙へ貼り付けてください。

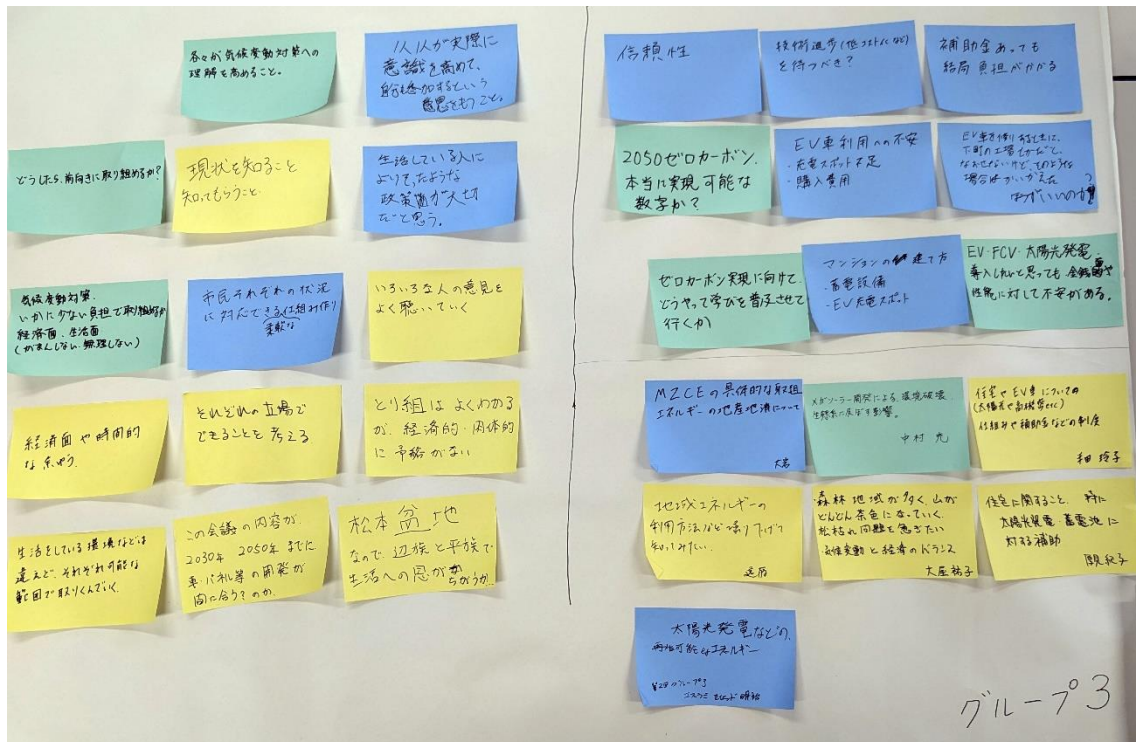


【グループⅠ】

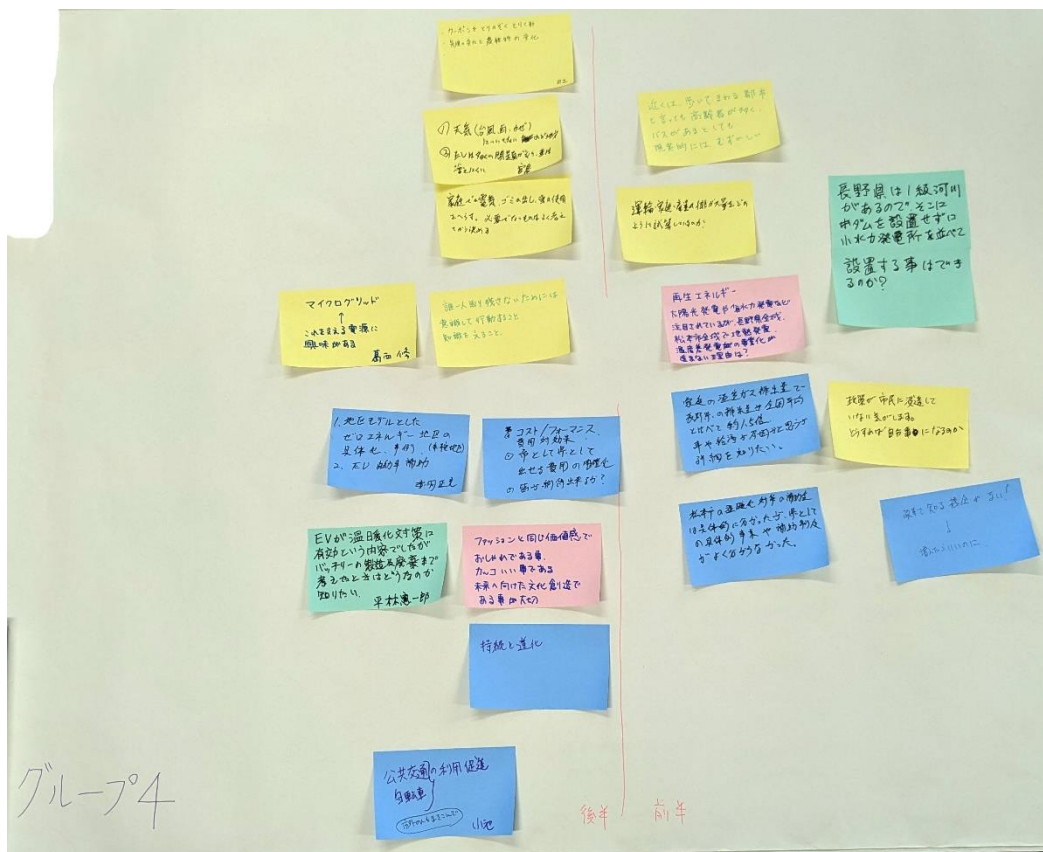


[illegible]

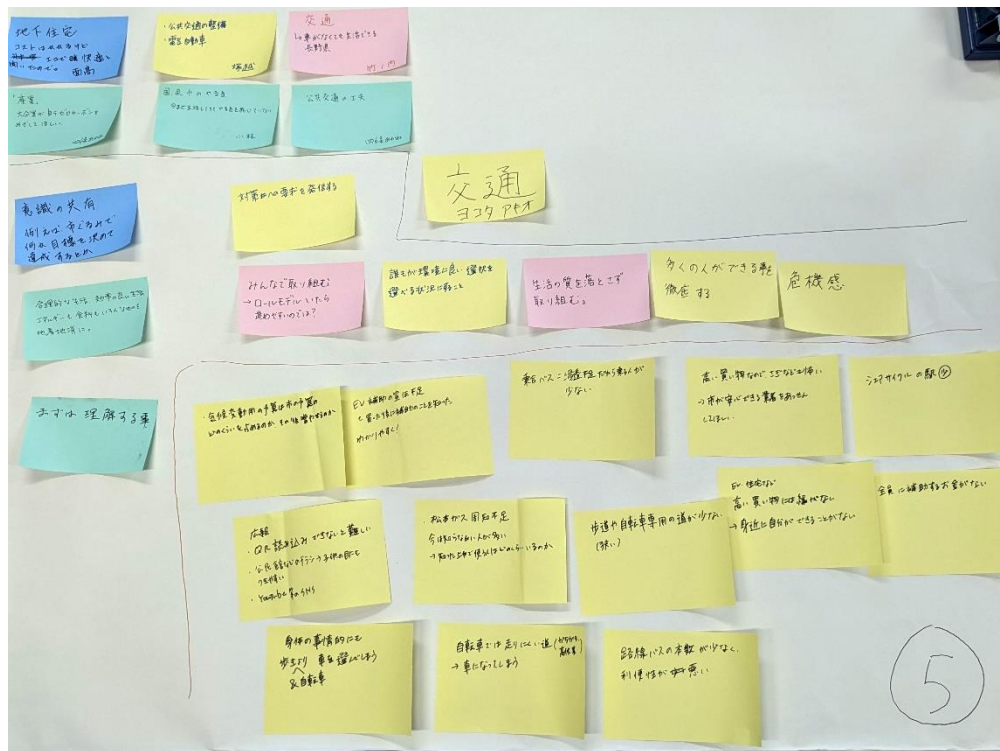
【グループ3】



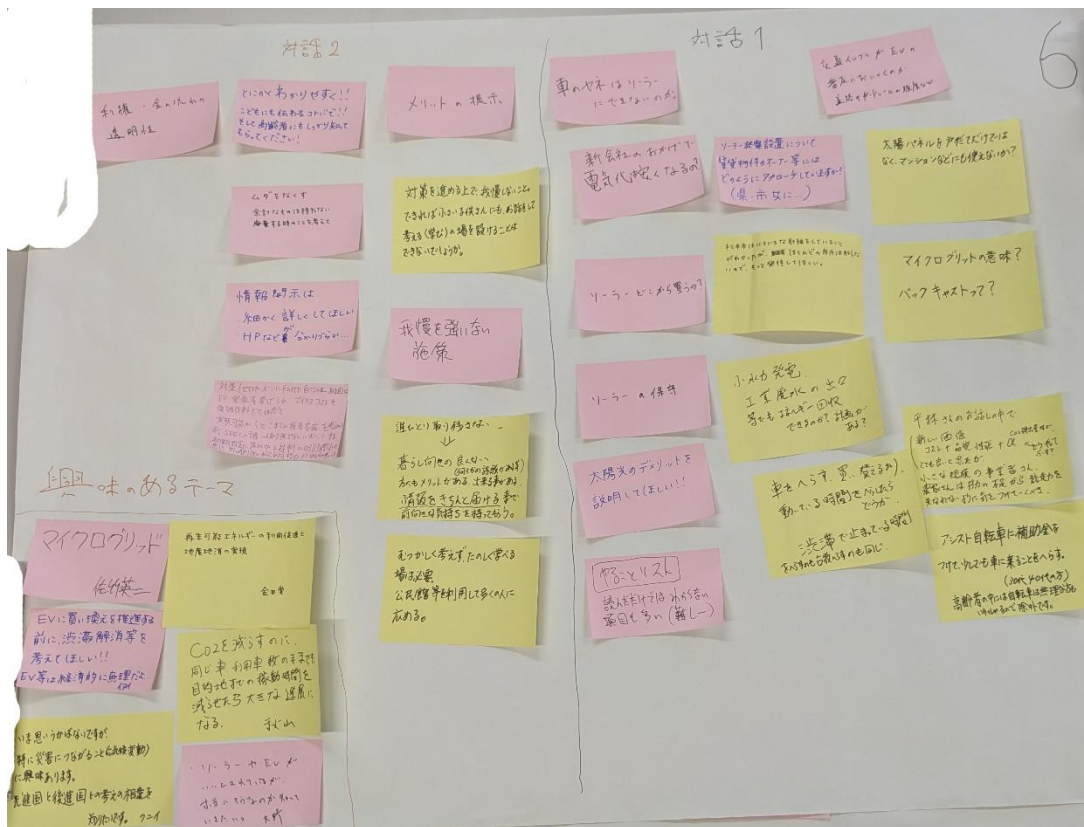
【グループ4】



【グループ5】



【グループ6】



【グループ7】

Group 7 brainstorming session notes on a whiteboard. The notes are organized into several clusters around the central theme of 'EV car charging' (EV車の充電の仕方).

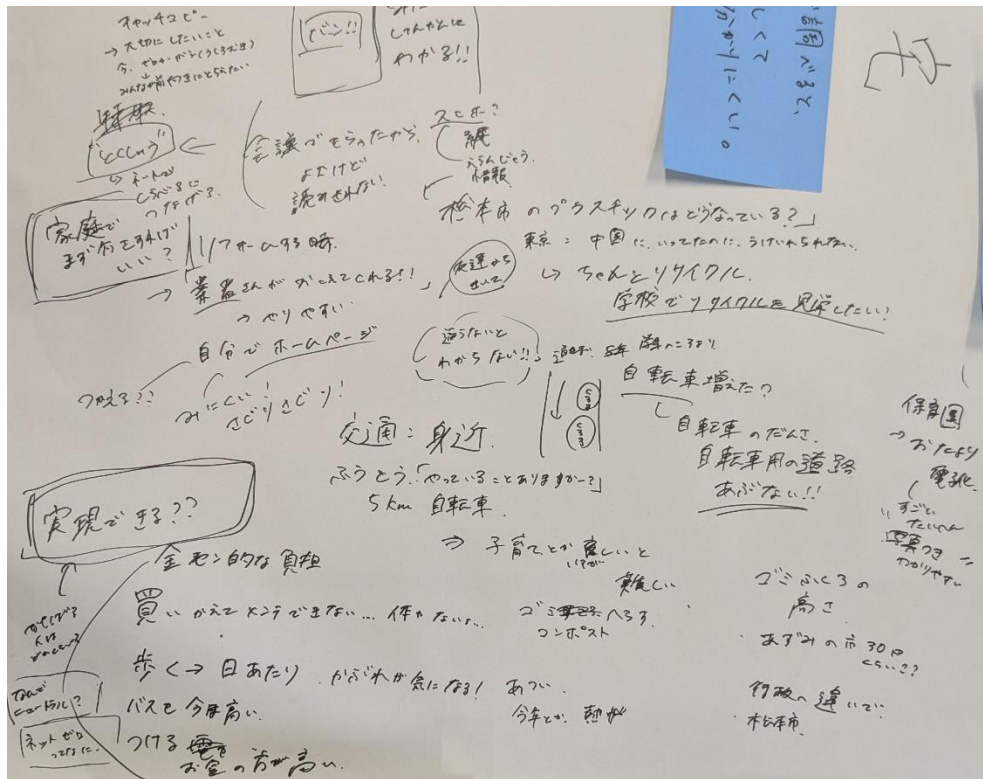
- EV車の充電の仕方** (EV car charging methods):
 - EV車は充電の仕方によって、充電の速度が異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の場所** (Charging locations):
 - 充電の場所は、充電の速度、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の場所は、充電の速度、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の時間** (Charging time):
 - 充電の時間は、充電の速度、充電の場所、充電の温度によって異なる。
 - 充電の時間は、充電の速度、充電の場所、充電の温度によって異なる。
- 充電の温度** (Charging temperature):
 - 充電の温度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間によって異なる。
 - 充電の温度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間によって異なる。
- 充電の速度** (Charging speed):
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の場所、時間、温度、速度** (Charging location, time, temperature, speed):
 - 充電の場所、時間、温度、速度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の場所、時間、温度、速度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。

【グループ8】

Group 8 brainstorming session notes on a whiteboard. The notes are organized into several clusters around the central theme of 'EV car charging' (EV車の充電の仕方).

- EV車の充電の仕方** (EV car charging methods):
 - EV車は充電の仕方によって、充電の速度が異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の場所** (Charging locations):
 - 充電の場所は、充電の速度、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の場所は、充電の速度、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の時間** (Charging time):
 - 充電の時間は、充電の速度、充電の場所、充電の温度によって異なる。
 - 充電の時間は、充電の速度、充電の場所、充電の温度によって異なる。
- 充電の温度** (Charging temperature):
 - 充電の温度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間によって異なる。
 - 充電の温度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間によって異なる。
- 充電の速度** (Charging speed):
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の速度は、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
- 充電の場所、時間、温度、速度** (Charging location, time, temperature, speed):
 - 充電の場所、時間、温度、速度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。
 - 充電の場所、時間、温度、速度は、充電の速度、充電の場所、充電の時間、充電の温度によって異なる。

【グループ8】手書き部分



(9) コメント

最後に、情報提供者の平林さんからコメントをいただきました。

(平林さん)

ゼロカーボン室長に就任した時、じつは家族から「ゼロカーボンって何？」と言われた。一般市民の意識というのは残念ながらそれが現実だと思う。皆さんはここで議論をするだけで、ゼロカーボンに貢献してくださっている。感謝申し上げたい。

アクションプランは、松本市だけでなく長野県でぜひ参考にさせていただきたい。市民目線の、忖度しないアクションプランを期待している。それを長野県の政策にも活かしていきたい。

(10) 閉会

全体進行を務めた気候わかもの会議まつもと(Y-CAM)の吉村隆博さん(信州大学理学部3年生)から、多くの方々のご家族やご友人に第1回の成果をすでに紹介してくださっており、このような学びの場とともに、参加者が参加経験を伝えていくことが、ゼロカーボンの取り組みを拓げていくカギだと思う、と所感が述べられ、第2回を閉じました。

3. 対話Ⅰ（政策って難しい？ 疑問点・不明点をすっきりさせよう）の結果

（グループⅠ）

- ・なぜ横文字が多いか、わかりやすい言葉をつかえないか
- ・脱炭素が中心に話が進められることが多いが、炭素を別のモノに変換してしまう考え方は難しいのか
- ・地産地消のはなし(エネルギーのこと、副市長のはなし)をもっと具体的に知りたい
- ・森林整備(CO₂吸収)の計算、効率(効果)
- ・ゼロカーボンシティの表明は周知されているのに、こんなに多くのすばらしい施策・実践が周知されていないこと。報告・進捗などの場がない(少ない)?
- ・のりくら・波田の住民がモデル生活を理解していないこと。学び?生活変化?が実感されていない?→良いこと?悪いこと?
- ・ゼロカーボンで温暖化はどうなっているか
- ・我々の生活が2050年にはどうなっているか知りたい(推測でよいので)
- ・CO₂の排出量が年々下がっている運輸や家庭等どういう取り組みで下がってきているか?
- ・原子力の研究。現状と国の方針が詳しく知りたい。
- ・太陽光のデメリット(ごみ、利益の還元率、FIT 終了など)が知りたいです
- ・新築住宅太陽光パネルはつけませんでした。ゴミ問題が気になって・・・
- ・例えば太陽光パネル、メリット<デメリットの説明が欲しいです
- ・補助金制度はありがたかったです(ペレット・生ごみ処理等)
- ・新築(設)の太陽光パネルの補助はあるようだが、取替時の補助制度はないのか
- ・住宅以外の建物への太陽光や蓄電池の設置への補助は?
- ・EV 用充電器は市や県で設置する予定はありませんか?
- ・EV など自家用車への補助は検討されているが、公共交通などの充実への施策はないのか
- ・(EV)街の中への充電施設の拡大は行われますか。EV の利便性の向上も求められるとよいと思います→市でもどこに配置するか考えている。街中に欲しいけど・・・急速充電の技術あり

（グループⅡ）

- ・補助制度について ネットや業者に調べるが、明確に答えてもらえないことが多い。行政の文章は難しい。
- ・最初の設備の資金が、17 年で回収できるとは言っても出せない人が多いのでは?
- ・補助があるとはいえ、EV ってそんなに増やせる?
- ・松本市の補助金申請、全体が1000 件超えていて、そのうち太陽光発電と蓄電池はあわせて100 前後。あとは何に申請されるの? (みんなが申請しやすいものは何?)
- ・環境教育の推進はとても大切だと思うが、具体的にこれまで行ったことを知りたい。
- ・分野別の目標。どれが達成できる? また、どれが達成困難?

・カーボンオフセットインセンティブの活用って？ ・エネルギーの地産地消は MZCE 設立でどのくらいの割合できる予定なのか。 ・エネルギー自立とはどこからどこまでのことを言っているか。 ・小水力発電と普通の水力発電は何が違う？ ・投資をどこにどれだけかけるとか決まっているか？ ・ソーラーパネルの設置についてもっと利用推進が図れるものはないか？ ・CO₂ の量についてイメージがわからない。たとえばで表現してもらえないか。→自分がどれくらい CO₂ 出してる？電気がどこから来てるか見えない。 ・現状の電気・ガソリンの使用量と省エネの量が結びつかない。 ・省エネ設備（給湯器エコキュートなど）市からの補助金と合わせて国からの補助金も受けることができるのか。 ・電気等切り替えようという風に思い至らない→どういうきっかけ？ ・長野県風力発電少ない。国立公園が多いから？
(グループ3) ・信頼性 ・技術進歩（低コスト化など）を待つべき？ ・補助金あっても結局負担がかかる ・2050 ゼロカーボン、本当に実現可能な数字か？ ・EV 車利用への不安（充電スポット不足、購入費用） ・EV 車を修理するときに、下町の工場とかだと直せないけど、そのような場合は買い換えたほうがいいのか？ ・ゼロカーボン実現に向けて、どうやって学びを普及させて行くか ・マンションの建て方：蓄電設備、EV 充電スポット ・EV・FCV・太陽光発電：導入したいと思っても、金銭面や性能に対して不安がある。
(グループ4) ・長野県は 1 級河川があるので、そこにダムを設置せずに小水力発電所を並べて設置する事はできるのか？ ・政策が市民に浸透していない気がします。どうすれば自分事になるのか ・政策を知る機会がない！→増えたらいいのに ・近くは、歩いてまわる都市と言っても高齢者が多く、バスがあるとしても現実的にはむずかしい ・運輸・家庭・産業の排ガス量をどのように試算しているのか ・再生エネルギー、太陽光発電や省水力発電など注目されているが、長野県全域、松本市全域で地熱発電、温度差発電の事業化が進まない理由は？ ・家庭の温室ガス排出量で長野県の排出量が全国平均と比べて約 1.5 倍。車や給湯が原因かと思うが詳細を知りたい

・松本市の温暖化対策の補助金は具体的に分かったが、県としての具体的事業や補助制度がよく分からなかった
(グループ5) ・シェアサイクルの駅が少ない ・全員に補助するお金がない ・高い買い物で、詐欺なども怖いため、市が安心できる業者を斡旋して欲しい（太陽光、EV） ・EV、住宅など：高い買い物には縁がないため、身近に自分ができることがない ・乗合バス：浸透不足だから乗る人が少ない ・歩道や自動車専用の道が少ない（狭い） ・自転車では走りにくい道（ガタガタ、高低差）→車になってしまう ・身体の事情的にも、徒歩や自転車より車を選んでしまう ・路線バスの本数が少なく、利便性が悪い ・松本ガス周知不足：今は知らない人が多い→知った上で使う人はどのくらいいるのか ・気候変動用の予算は市の予算のどのくらいを占めるのか。その後増やせるのか ・EV 補助の宣伝不足：買った後に補助のことを知った。わかりやすく！ ・広報：QR コード読み込みできないと難しい、公民館等のチラシは子供の目にもつきやすい、YouTube 等の SNS
(グループ6) ・車の屋根はソーラーにできないのか ・新会社のおかげで電気代は安くなるの？ ・ソーラーどこから買うの？ ・ソーラーの保守 ・太陽光のデメリットを説明してほしい！！ ・やることリスト 読んだだけではわからない項目も多い(難しー) ・ソーラー発電設置について賃貸物件のオーナー等にはどのようにアプローチしていますか？(県、市、共に…) ・交通インフラがEVの普及に追いつくのか。道路やガードレールの強度など。 ・太陽光パネルを戸建だけではなく、マンションなどにも使えないか？ ・マイクログリッドの意味？ バックキャストって？ ・平林さんのお話の中で、【新しい価値：コスト+α】(←CO2 排出量でどうやって示す？)。とても良いと思ったが・・・小さな規模の事業者さん、農家さんは労力の不足から競争力を失わないように気をつけていくべき。 ・アシスト自転車に補助をつけて、少しでも車に乗ることをへらす（30代40代の方）。高齢者の中には自転車は無理な方もいらっしゃるので除外です。 ・車をへらす、買い替えるより、動いている時間を減らしたらどうか。渋滞で止まっている時間を減らすのも台数を減らすのも同じ。

・小水力発電、工業排水の出口等でもエネルギー回収できるのか？計画がある？ ・松本市はいろいろな取り組みをしていることがわかったが、ほとんどの市民は知らないで、もっと発信してほしい
(グループ7) ・補助によって少し安く車や住宅設備を買えたとしても総合的にガソリン車の方が安くメリットがあればEV車は普及していかないのではないかな？ ・補助金の条件がいろいろありそうでよくわからない ・窓枠設置、普通の住居には←賃貸にはキツイ ・松本市のフードロスや太陽光マップはどこから飛べるのか？（松本市のHPにまとめて載っているのか？）まとめてCO2を減らす取り組みのサイトに飛べれば知る機会が増える ・補助金交付はゼロカーボンを推し進めるのにいいけれど少し複雑すぎるような・・・ ・県営住宅なども協力して空いている屋上にソーラーパネルを付ければいいなと思いました。 ・EV車の費用の採算はとれるのか？ どれくらいかかるのか？ ・小中学校高校での環境教育について ・路線バスが全車両EVかFCVに変えられたらゼロカーボンへの一歩に近づけないかな？ ・V2Hと太陽光発電+EV車の違い ・森林が育っていくまで30～40年かかると思うのですが、吸収（炭素を）できるようになるのはいつ頃から？ ・路線バスについて 松本市は観光でくる人が多いと思うのですが、もっと広範囲に回るような手だてはないのか？ ・太陽光ソーラーパネルと蓄電池はリースならどのくらいの値段になる？ ・EV今後どのくらいの値段で買えるようになる？ ・EV車の充電の仕方
(グループ8) ・なんでニュートラル？ ・ネットゼロって何？ ●広報関係 ・スマホ、QRコード：写真や動画の方がぱっと見やすい。でも見たいものしか見ないかも ・広報って自分に関係ないと見ないかも ・大々的にパッと見てわかること。松本市と長野県の取り組みは全然知られてない ・会議でもらったから読むけど読み切れない。 ・（広報誌などで）特集：ネットで調べるにつなげる。 ・家庭でまず何をすればいい？：リフォームする時に業者さんが教えてくれる→やりやすい。 ・保育園ではおたよりの電子化した。すごいいたいへん。写真付きでわかりやすい。

●交通

- ・本当は道路、歩道なのに駐車されていたりする。道路だけの問題じゃないな。
- ・どこまで整備できる？
- ・車は身近だからこそ難しい
- ・まだまだ不便。停留所やステーション遠い、限られている、夏は歩けない。
- ・自転車：道路整備がされていない。専用道路でなくて危険。
- ・通らないとわからない！ 道が狭い。学生のころより自転車が増えた。自転車の段差があり、自転車用の道路あぶない！
- ・子育てとか忙しいと難しい。
- ・金銭的な負担、買い換えてメンテできない。体力がない。
- ・歩く：日当たり、かぶれが気になる。
- ・バスも今は高い

●本音

- ・小さなところならやれるかな。例えば、ゴミ減少や自転車など
- ・本当に実現可能？

●ゴミ

- ・ゴミ処理場：教育の場所になるかも。見学とか。
- ・ゴミ袋の金額：そもそもゴミを出させない？
- ・松本のプラスチックはどうなっている？
- ・東京：中国にいていたのにうけいれられない
- ・ちゃんとリサイクル：学校でリサイクルを見学したい。

●再エネ

- ・太陽光、資金（買いかえ）、補助金少ない

●住宅

- ・ZEHとか：業者が補助金あるよって教えてくれる
- ・自分で調べると難しくてわかりにくい

4. 対話2（気候変動対策を進める上で大切だと考えること）の結果

※文意を実行委員会で少しだけ補っているものがあります。

（グループ1）

- ・地球の利益であり、生活の利益でもあること。
- ・誰も取り残さない。参加、反対、不参加、同意ができる環境であること。対話、連絡があること。そういう生活圏であること。
- ・トライアンドエラーが可能であること。
- ・技術革新へのコストを惜しまない。
- ・災害に対応できること。支援にも対応できるとなおよい。
- ・簡単に取り組めて継続できることが大切だと思います。
- ・政治に関心を持つ。
- ・自分や家族に利益があり、幸せにくらせること。
- ・正しく現状の理解をする。県や国の取り組みを得る。

（グループ2）

- ・化石を捨て（埋め）、太陽を味方に
- ・子どもから大人まで誰でもできること。具体的にコレ！が出てきませんが、、環境教育、気候変動に関することの意識付けなど
- ・知る→選択する→行動する：現状ととれる対策は何かをまず知る、知ってもらう→その中で自分ができること、まわりができることを選んでみる（全部はできないかもなので）→自分にできる、合っているものを一人一人ができることを行動にうつす
- ・意識を高める教育、学び：知るのが大切
- ・政策に頼らない
- ・生活の質を悪くしないこと（がまんしてゼロカーボン達成を目指さない）
- ・対策がとれる人ととれない人の格差を生まないような政策

（グループ3）

- ・各々が気候変動対策への理解を高めること。
- ・一人一人が実際に意識を高めて自分も参加するという意思をもつこと。
- ・どうしたら前向きに取り組めるか？
- ・現状を知ること、知ってもらうこと。
- ・生活している人に寄り添ったような政策が大切だと思う。
- ・いろいろな人の意見をよく聴いていく
- ・市民それぞれの状況に対応できる柔軟な仕組み作り
- ・いかに少ない負担で取り組めるか：経済面、生活面（がまんしない、無理しない）
- ・経済面や時間的な余裕
- ・それぞれの立場でできることを考える

・取り組みはよくわかるが、経済的、肉体的に余裕がない ・生活をしている環境などは違えど、それぞれ可能な範囲で取り組んでいく ・この会議の内容が2030年、2050年までに車、パネル等の開発が間に合うのか ・松本盆地なので辺族と平族で生活への恩が치가うか
(グループ4) ・誰一人取り残さないためには意識して行動すること、知識を得ること ・コストパフォーマンス、費用対効果。市として県として出せる費用の明確化、皆が納得できるか ・ファッションと同じ価値観でおしゃれである事、カッコいい事である、未来へ向けた文化創造である事が大切 ・持続と進化 ・家庭で電気、ゴミ出し、車を使用を減らす。必要でないものはよく考えてから決める。
(グループ5) ・意識の共有。例えば市ぐるみで何か目標を決めて達成するとか。 ・合理的な生活、効率の良い生活。エネルギーも食料もいろんなものを地産地消に。 ・まずは理解すること ・対策への要求を発信する ・みんなで取り組む：ロールモデルいたら進めやすいのでは？ ・誰もが環境に良い選択を選べる状況にすること ・生活の質を落とさず取り組む。 ・多くの人ができることを徹底する ・危機感
(グループ6) (グループ6) ・利権、金の流れの透明性 ・とにかくわかりやすく！！子どもにも伝わるコトバで！！そして高齢者にもしっかり知ってもらってください！ ・メリットの提示 ・ムダをなくす：余計なものは持たない、廃棄する時のことを考えて ・対策を進める上で我慢しないこと：できれば小さい子供さんにもお話をして考える（学び）の場を設けることはできないでしょうか。 ・情報開示は細かく詳しくしてほしい。HPなどが分かりづらい。 ・我慢を強いない施策 ・ゼロカーボンに向けた自治体の取組はEV、電気等挙げられ、マイナスコストも強調材料だと思う。実現可能か（どこまでの経済家庭を考えるか）がSDGsの誰一人取り残さないにおいて重要。初期投資に踏み切る材料にはなり得ないと感じ、別の側面の利己的な理由が欲しいと思った。

・誰ひとり取り残さない→暮らし向きの良くない（何らかの課題がある等）方にもメリットがある、出来る事がある。情報をきちんと届ける事で、前向きな気持ちを持ってもらう。 ・難しく考えず、たのしく学べる場は必要。公民館等を利用して多くの人に広める。
（グループ7） ・周りのことを考える ・分かりやすく簡潔に情報を広く伝える事：まずは知ってもらう事、行政はどんな対策を していて市民にどんなことを期待しているのか明確にする ・若年者が良い環境の中で住み続けることができる ・わかりやすさ／とりくみやすさ／属性毎の取り組み状況の見える化／成果の見える化 ・気候問題や脱炭素社会に関する情報をもっと多くの人に知ってもらう事も重要だと思います。 ・短期的にも中長期的にも個人に明確なメリットがあること
（グループ8） ・ゼロカーボン なからにしない ・ゼロカーボンは地球を救う ・Keep Earth, Keep Matsumoto：希望のこもったワードにして、ネガティブワードをやめたい。心に刺さる前向きな言葉

対話2に続いて、参加者の興味のあるテーマを挙げました。

・ゼロカーボンへその未来図を具体化する ・森林吸収量との相殺／地域エネルギー事業会社 ・太陽光パネルのデメリット／暮らしの中で"お得"を感じるとりくみをもっと知りたい ex) リユース会など家計の助けになるもの ・小水力発電の施策をもっと進めて欲しい（家庭なのでも設置できるようにしたい） ・公共交通の利用促進に向けた取組 ・EVの普及は現実的？ ・子どもから大人まで知ることが大切。子どものうちから気候変動対策に意識を持つためにできることは？ 教育について ・行政の皆様へ。市民に何ができるか、逆引きチャートのようなものを作ってほしい ・今後の食糧生産や農業のあり方について知見を広めたい ・EVやソーラーパネルには補助があれば手が届くのか。効率が良いというか、効果が大きいのはわかる。補助があるのも知った。でもそれでも果たして手が届くか。 ・どうやったら知ってもらえるか？ 自分にできるものを選んでもらえるか？ 一人一人に行動してもらえるか？ ・自分のCO2排出量が分からない。CO2の量に対して具体的イメージが湧かない。 ・メガソーラー開発により環境破壊、生態系に及ぼす影響
--

- ・住宅やEV車についての（太陽光や高気密 etc）仕組みや補助金などの制度
- ・地域エネルギーの利用方法など掘り下げて知ってみたい
- ・森林地域が多く、山がどんどん茶色になっていく。松枯れ問題を急ぎたい。気候変動と経済のバランス。
- ・住宅に関すること。特に太陽光発電、蓄電池に対する補助
- ・太陽光発電などの再生可能エネルギー
- ・カーボンを取り除く取り組み
- ・気候の変化と農作物の変化
- ・天気（台風、雨、風）
- ・EVは多くの問題があり車は増えにくい
- ・マイクログリッド←これを支える電源に興味がある
- ・EVが温暖化対策に有効という内容でしたがバッテリーの製造及廃棄まで考えたときはどうなのか知りたい
- ・地区モデルとしたゼロエネルギー住宅の具体化事例（乗鞍地区）
- ・EV自動車補助
- ・公共交通、自転車の利用促進（市外の人でもまきこんで）
- ・地下住宅：コストはかかるけどエコで快適と聞いたので。
- ・産業：大企業が自らゼロカーボンをめざしてほしい。
- ・交通：車がなくても生活できる長野県
- ・公共交通の工夫
- ・国、県、市のやる気：今まで生活してきたやる気を感じていない
- ・交通
- ・マイクログリッド
- ・再生可能エネルギーの利用促進と地産地消の実現
- ・EVに買い換えを推進する前に渋滞解消等を考えてほしい！！EV等は経済的に無理だよ
- ・CO2を減らすのに同じ車、利用者数のままでも目的地までの稼働時間を減らしたら大きな進展になる
- ・いま思い浮かばないですが特に災害につながる（気候変動）に興味あります。先進国と後進国との考えの相違を知りたいです。
- ・ソーラーやEVがいいとされているが、本当にそうなのか知っていききたい。
- ・全車をEV、FCVに出来ないか
- ・行政と企業の連携、脱炭素地域の経済効果
- ・EV車等の充電する場所を増やしていく取り組み
- ・2030年までの5年くらいでCO2をゼロにしていく為の目標に取り組む為のお金（補助金や設備をつくる）を松本市がかけられるのか？ 本当に実現可能なのか？
- ・「脱炭素先行地域」地域でエネルギーを作り、その地域で消費する
- ・太陽光発電、蓄電池にかかるコストと今の電力価格の比較

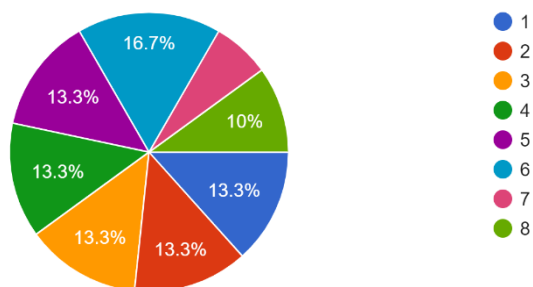
- ・ 交通インフラはどこまで整備可能か
 - ・ 太陽光発電の余剰電力の有効活用について具体的に知りたい
 - ・ 自動車は全てEV、FCV、歩いて楽しめるまち
 - ・ 太陽光事業：家と公共施設
-
- ・ 産官学の連携。大学生として脱炭素社会にどのように貢献できるか。どのような視点、協力、取組みが求められているか。(Y-CAM)
 - ・ 自然災害をすぐに減らすことはできない。だからこそ避難所や防災・減災にも貢献できる適応策 (Y-CAM)
 - ・ ゼロカーボンを進める中で政策や補助金を市民に広めていくには (Y-CAM)
 - ・ 学び、行動というテーマ。知らなければ行動に移せないし、知らない人が取り残されていく。どう考える／切り替えるきっかけを作るか (Y-CAM)
 - ・ 公共交通の整備、電気自動車 (Y-CAM)

5. 実施後の参加者アンケート

会議実施後に参加者にアンケート調査を実施しました。40名の参加者中30名にご回答をいただきました。アンケート調査票と回答の集計結果は以下のとおりです。

質問1. 本日の対話で参加したグループの番号(1~8)をお選びください。

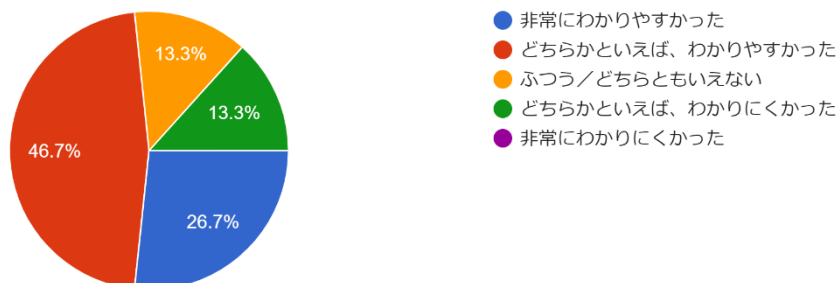
30件の回答



質問2. 情報提供の内容は、わかりやすかったですか。

次の中からもっとも近いものを1つお選びください。

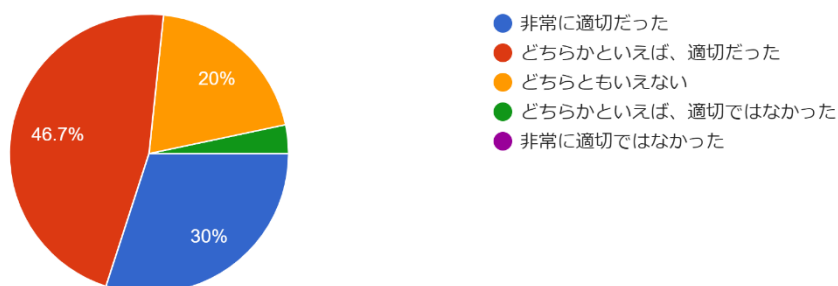
30件の回答



質問3. 情報提供の内容は、偏りがなく適切だったと思いますか。

次の中からもっとも近いものを1つお選びください。

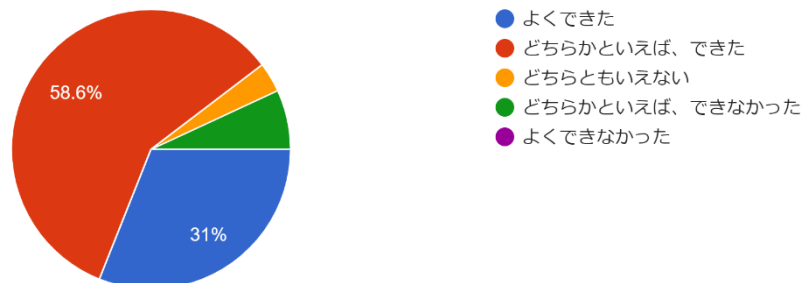
30件の回答



質問 4. グループ対話では、あなたは思ったことを発言できましたか。

次の中からもっとも近いものを 1 つお選びください。

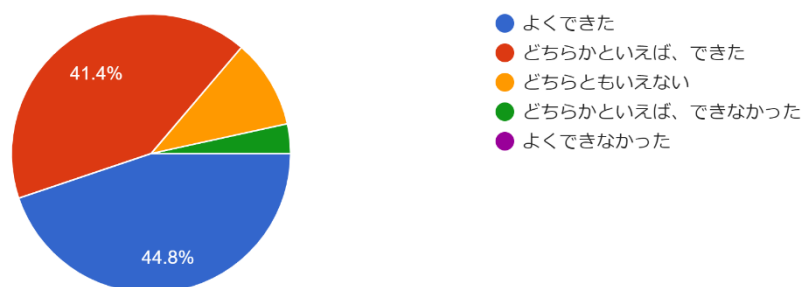
29 件の回答



質問 5. グループ対話では、

いろいろな意見に触れることができましたか。次の中からもっとも近いものを 1 つお選びください。

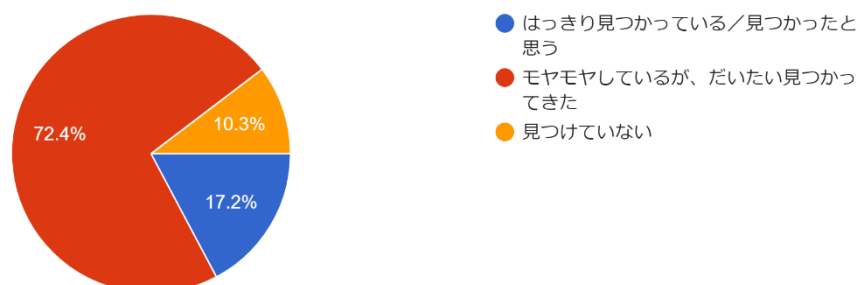
29 件の回答



質問 6. 気候変動対策について、とくに興味・関心のあるテーマや対象は見つかりましたか。

次の中からもっとも近いものを 1 つお選びください。

29 件の回答



質問7. 今後の会議で、専門家や気候変動対策の実践者などから受けてみたい情報提供の内容やテーマ、対象がありましたら、自由にお書きください。

太陽光発電などの、再生可能エネルギー
波田地区のゼロカーボンの具現化状況
EV 太陽光発電設備
メガソーラーの建設について
せっかく松本市に特化しているのだから、市民が住んでいる地域もよく考えて、情報提供を聴いて行きたい
森林吸収量の算出方法と松本市の現状／森林と河川を維持整備しながらエネルギー生産政策が叶うかどうか（災害対策と生活圏の改良も含めて）／MZCEの実績報告と今後の事業計画／松本市で実施されている活動とその効果
この会議に限らず温暖化は CO2 を出さない方向に比重を置いた対策の議論が進んでいるが、人間の吐く息にも含まれるなど出さない事は不可能なので出したものを温暖化に影響のない物質に変える技術はないのか、再エネで発電した電気を蓄えて使う方法を議論しがちだが、実は蓄電は自然放電が多く効率が悪い欠点もあるので何か別のもの（例えば水素）に変換して蓄えると言った技術などについて知見のある方のお話を聞けたらと思う。
牛のゲップの影響、床発電、波力発電
世界の温室効果ガスに対する具体的な取組を知れたらと思います。
ゼロカーボンが大切な事は段々わかってきました。その為に出来る事をしていけないといけないと思いますが、実際、温暖化対策設備を設置する時の補助金、松本市だけではなく、国や県でも対策していないのか詳しくお聞きしたいです。
太陽光パネルのデメリット
農業、林業、漁業等にたずさわっている方々の気候変動への関わり
市の政策
ゼロカーボン実践者から体験談を聞く。
松本市の右折レーン設置など、どのくらい進んでどの位渋滞対策が CO2 の削減につながると試算しているのか
EV のバッテリーについて（製造・廃棄・コスト）
主婦目線でできる施策などの話。大きなビジョンではなく身近における実現可能な事。災害とつながる温暖化とはどういうことか？ その対策とは？

質問8. 本日の会議運営について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

前回よりも濃い話し合いだったと感じた。
質問者の時間が長過ぎる時があった。質問内容を絞らせた方が良いと思う。
情報提供の内容は難しかったですが、時間の調整などをして、スムーズに進行されていて、凄いいいと思いました。学生さんのアンケートの集計の発表も、わかりやすく、素晴らしいと思

いました。
飲み物やお菓子等は要らないのではないかな
会議目的を明確に定めていただき、かつとても細やかに進行をいただき、感謝しております。次回も同様の運営をよろしくお願いいたします。本日はたいへんおつかれさまでした。ありがとうございました。
駐車場が満車で参加者が駐車出来ないことがあり、次回から参加者用に予約をしておくという話をされていたが、会議の趣旨から考えると、可能な人は自転車や公共交通機関の利用を呼びかけるのが先ではないか。その上で駅から市役所までのバスのチケットを配布していただけたら嬉しい。極論だがEVに乗り換えて行こうと言う議論をする場に世の中で最もCO2を出していると言われる車の利用に対して駐車料金の補助は無くても良いと思う。土曜はコミュニティバスも動いているので次回は時間が許せば公共交通機関で会場に出向こうと思う。
人数が多くマスク無しの人も多いので、感染症対策として換気をしてほしい。
駐車場の問題
副市長のご挨拶で、中条に家を建てて、太陽光発電を設置して蓄電池とEV車を購入したと話されてました。何か違和感を感じました。その後の信大生のアンケート調査のお話で、暮らし向きが高い人ほど気候変動対策が実行可能と評価されてるみたいで、なるほどと納得しました。茅野先生が、EV車は、まだまだ裕福な人のステイタスみたいな感じになっているが、そうではなく、みんなが声を揃えて訴えて、誰もが所有出来るようにして行く事が大切と仰った事が心に残りました。
特にありません。今回も有意義な会でした。ありがとうございました。
ありがとうございました。
スタッフの皆さんがテキパキ動いておりありがたかったです。
良い進行だと思いました
情報提供で横文字が多く、ついていけないことがあったので、もしできれば今回出た物の注釈がほしいです。FCV、ZEH、ZEBなど
前回よりもイスの配置が良かったです。全員が前を見ることができ、前回よりも話がよくわかりやすかったです。茅野先生の進行が良かったです。(安心して聞けることが。タイミングよくお話を進めていただける。)

(第2回の当日運営に関わった実行委員会関係者)

・気候わかもの会議まつもと(Y-CAM) 13名

鈴木草、瀬川菜々、宮内璃音、大岩咲月、佐藤由依子、塚越陽子、山口紗季、余合璃子、渡邊拓実、矢花優太、吉村隆博、Munkhsuvd Munkhchuluun、杉本陽太

・松本市 5名

宮之本伸、鈴木博史、笠原聖矢、北澤美乃里、工藤太陽

・信州大学グリーン社会協創機構 3名

茅野恒秀、石鍋渚、内田考生